シカゴ沖縄県人会の歴史と近況

1906年に沖縄から満16歳になる一人の少年が移民呼寄せでハワイに渡航、その後米本土サンフランシスコ（大地震発生時）とニューヨークに移住、サンフランシスコでは、白人の家庭に住込みスクールボーイとして働き、ニューヨークでは、ホテルの皿洗いをしながら昼は働き夜は英語教育を受け、いろんな経験をした後シカゴに転住、シカゴ市内のクラーク街とデビジョン街の角に４階立ての建物を購入、１階に日本食料品店を開業しながら沖縄からの留学生と戦争花嫁を親身に世話をしている内に沖縄出身者が集まるようになり郷友会の必要性を感じ4人の有志が発起人となり、郷友会を設立したその人が満16歳で沖縄から渡米して来た少年、初代会長安里徳仁氏と申します。彼は、常に沖縄出身者であることを誇りに思い、誠実　勤勉　努力　博愛の持ち主でした。彼は、日本食料品店の元祖ともいわれております。

1966年に僅か12名の沖縄出身者が片手に三線と郷土料理を持ち寄り、郷土を懐かしく思い親睦を深めていく中で「沖縄郷友会」の始まりとなりました。現在では、沖縄出身者ばかりではなく日系人　アメリカ系人　ヨーロッパ系人　ヒスパニック系人　アジア系人が会員に加わり200戸余の大所帯になり地域社会、教育　文化交流の一環として琉球舞踊、三味線　祭太鼓　沖縄空手などで大活躍して来られたことは、シカゴ沖縄県人会員一人一人が主役になり、協力　助け合い　献身的奉仕　親睦の和を軸にして頑張って来た結果だと信じております。

1998年頃に沖縄郷友会から「シカゴ沖縄県人会」に改名、Nonprofit Organizationの団体に属し、-Scholarship制度を設けてその恩恵を受けている次世代の学徒たちは、化学　文理学　工学等の学問に学び、また立派なアメリカ市民として活躍しております。郷土出身者の心を良く理解し県人会に全力を注ぎ込んで献身的に奉仕して「与える者は、受ける者より幸いなるかな」という信念を貫てこの世を去って逝かれた方もおられます。シカゴ沖縄県人会の発展を願いつつ昇天した方達と共に又、ご多忙中にもかかわらずご参加下さった皆様とご一緒に今日のシカゴ沖縄県人会の50周年記念祝賀会をを祝うことができます事を心より嬉しく感謝申し上げます。

2014年に沖縄県読谷村在住の与那覇慶子一団からシカゴ沖縄県人会の50周年記念の為に唐獅子一対の贈呈を受け、光栄におもいます。唐獅子は、邪悪を退き幸運をもたらすという沖縄の諺道りシカゴ沖縄県人会の将来に幸運をもたらす事を信じております。この度は、読谷村の唐獅子（シーサードー）が飛行機に乗って来られ、歴史ある唐獅子からシカゴの唐獅子に息を吹き込むという獅子舞で舞台に芸の花を添えてくださることに深く感謝申し上げます。美しい沖縄の伝統文化を次世代に継承していく為にも、ウチナーチュアイデンティティを大切に保持し、ククルアワチョウテイ　チバテイイチャビラー（With hearts together-lets's go for it!）の精神で邁進して行きたいと思います。

美ら島（ちゅらしま）沖縄県は、広大な海域に点在する約160余の島々から成り立っています。独自の文化を築き緑豊かの中に平和に生きておりました。しかし、太平洋戦争に巻き込まれ一般住民を含めた20万人余の生命、多くの財産、文化財が奪われ、緑豊かで平和な島は焦土と化してしまいましたが住民は、失望に終わることなく立派に立ち上がりました。戦後70年を経た今日でも、沖縄県は同じ日本国でありながら米軍基地を約70％占め、基地騒音　基地事件から完全には開放されておりません。名護辺野古移設問題が国と沖縄が和解案が成立されましたが将来がどうなって行くか心配です。基地返還問題、基地移設問題が平和的に解決ができるように祈らずには居られません。沖縄県では、今年の10月に<第6回世界ウチナーチュ大会」が開催予定になっております。この大会を契機に沖縄と世界中における県人とのネットワークの更なる拡充のために大きなイベントが計画されております。

副会長/新ウチナー民間大使
ニコルズ郁子